
【テキスト中に現れる記号について】

《》：ルビ
(例) 師走《しはす》

|：ルビの付く文字列の始まりを特定する記号
(例) 或|夜《よ》

[#]：入力者注 主に外字の説明や、傍点の位置の指定
(例) 朝鮮のらつぱ[# 「らつぱ」に傍点] 卒《そつ》がね

師走《しはす》の或|夜《よ》、父は五歳になる男の子を抱《だ》き、一しよに炬燵《こたつ》へはひつてゐる。

子 お父さん何《なに》かお話しをして！

父 何《なん》の話？

子 何《なん》でも。……うん、虎のお話が好《い》いや。

父 虎の話？ 虎の話は困つたな。

子 よう、虎の話をさあ。

父 虎の話と。……ぢや虎の話をして上げよう。昔、朝鮮のらつぱ[# 「らつぱ」に傍点] 卒《そつ》がね、すつかりお酒に酔つ払らつて、山路《やまみち》にぐうぐう寝てゐたとさ。すると顔が濡れるもんだから、何かと思つて目をさますと、いつの間《ま》にか大きい虎が一匹、尻《し》つ尾《ぼ》の先に水をつけてはらつぱ[# 「らつぱ」に傍点] 卒の顔を撫でてゐたとさ。

子 どうして？

父 そりやらつぱ[# 「らつぱ」に傍点] 卒が酔つぱらつてゐたから、お酒つ臭い臭《にほ》ひをなくした上、食べることにしようと思つたのさ。

子 それから？

父 それかららつぱ[# 「らつぱ」に傍点] 卒は覚悟をきめて、力一ぱい持つてゐたらつぱ[# 「らつぱ」に傍点] を虎のお尻へ突き立てたとさ。虎は痛いのびつくりして、どんどん町の方へ逃げ出したとさ。

子 死ななかつたの？

父 そのうちに町のまん中へ来ると、とうとうお尻の傷の為に倒れて死んでしまつたとさ。けれどもお尻に立つてゐたらつぱ[# 「らつぱ」に傍点] は虎の死んでしまふまで、ぶうぶう鳴りつづけに鳴つてゐたとさ。

子 (笑ふ) らつぱ[# 「らつぱ」に傍点] 卒は？

父 らつぱ[# 「らつぱ」に傍点] 卒は大へん褒められて虎退治の御褒美《ごはうび》を貰つたつて……さあ、それでおしまひだよ。

子 いやだ。何かもう一つ。

父 今度は虎の話ぢやないよ。

子 ううん、今度も虎のお話をして。

父 そんなに虎の話ばかりありやしない。ええと、何かなかつたかな？……ああ、ぢやもう一つして上げよう。これも朝鮮の獵師がね、或山奥へ狩をしに行つたら、丁度《ちやうど》目の下の谷底に虎が一匹歩いてゐたとさ。

子 大きい虎？

父 うん、大きい虎がね。獵師は好《い》い獲物だと思つて早速《さつそく》鉄砲へ玉をこめたとさ。

子 打つたの？

父 ところが打たうとした時にね、虎はいきなり身をちぢめたと思ふと、向うの大岩に飛びあがつたとさ。けれども宙へ躍り上つたぎり、生憎《あいにく》大岩へとどかないうちに地びたへ落ちてしまつたとさ。

子 それから？

父 それから虎はもう一度もとの処へ歸つて来た上、又大岩へ飛びかかつたとさ。

子 今度はうまく飛びついた？

父 今度もまた落ちてしまつたとさ。すると如何《いか》にも羞《はづか》しさうに長い尻《し》つ尾《ぼ》を垂らしたなり、何処《どこ》かへ行つてしまつたとさ。

子 ぢや虎は打たなかつたの？
父 うん、あんまりその容子《ようす》が人間のやうに見えたもんだから、可哀《かはい》さうになつてよしてしまつたつて。
子 つまらないなあ、そんなお話。何かもう一つ虎のお話をして。
父 もう一つ？ 今度は猫の話をしよう。長靴をはいた猫の話を。
子 ううん、もう一つ虎のお話をして。
父 仕かたがないな。……ぢや昔大きい虎がね。子虎を三匹持つてゐたとさ。虎はいつも日暮になると三匹の子虎と遊んでゐたとさ。それから夜《よる》は洞穴《ほらあな》へはひつて三匹の子虎と一しよに寝たとさ。…
…おい、寝ちまつちやいけないよ。
子 （眠むさうに）うん。
父 ところが或秋の日の暮、虎は獵師の矢を受けて、死なないばかりになつて歸つて来たとさ。何《なん》にも知らない三匹の子虎は直《すぐ》に虎にじやれついたとさ。すると虎はいつものやうに躍つたり跳《はね》たりして遊んだとさ。それから又夜もいつものやうに洞穴へはひつて一しよに寝たとさ。けれども夜明けになつて見ると、虎は、いつか三匹の子虎のまん中へはひつて死んでゐたとさ。子虎は皆驚いて、……おい、おきてゐるかい？
子 （寝入つて答へをしない）……
父 おい、誰かゐないか？ こいつはもう寝てしまつたよ。
遠くで「はい、唯今」といふ返事が聞える。
〔#地から1字上げ〕（大正十四年十二月）

底本：「芥川龍之介作品集第四巻」昭和出版社

1965（昭和40）年12月20日発行

底本の「護物」「子 それから／父 それから虎は…」「何処《どこ》かへ行つてしまつたとさ」はそれぞれ、「獲物」「子 それから？／父 それから虎は…」「何処《どこ》かへ行つてしまつたとさ。」にあらためました。

疑問点の確認にあたっては、「芥川龍之介全集 第十三巻」岩波書店、1996（平成8）年11月8日発行を参照しました。

入力：j.utiyama

校正：かとうかおり

1999年1月27日公開

2003年10月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。